

青いケシの産地雲南にて メコノプシス・ベトニキホリア (*Meconopsis betonicifolia*)

田 中 桃 三

今年度の花葉会の海外研修旅行は、中国の広州、雲南地方であったが、シャングリラ（中甸）、老君山の自生地探訪では、数多くの貴重な植物や多くの園芸植物の原種を見ることができた。詳細については42ページを参照していただきたい。

この地方は日本の沖縄とほぼ同緯度で、高度3000～4000mの地帯であるが、雨量も多く植物の種類も多い。特に老君山の山頂付近はシャクナゲの森林が見事であった。今年は昨年天候の影響からか、開花している株は少なかったが、下草にサクラソウ属やエンゴサク属などが群落をつくっていた。

そしてそんな中に、このメコノプシスがあった。場所は山頂より下ったやや開けた斜面。数株ずつ、散在していた。やや離れたところには、赤い種類と黄色い種類があった。赤色種はベトニキホリアで、黄色種は別種と思われる。

ヨーロッパでは以前から栽培されていたが、夏の高温に大変弱く、日本での栽培を難しくしていた。しかし近年では春先に、店頭鉢植えなどで見られるようになった。青いケシは日本ではようやく園芸植物の仲

間に入ったのではないだろうか。

メコノプシス属には約45種類ほどふくまれるが、ヨーロッパにある1種類を除き、ほとんどはヒマラヤから中国に分布する。このうち雲南には17種類があるが、もっとも大きな花をつけるグランデス (*M. grandis*) はネパール産で雲南にはないが、花の色が鮮やかなホリドウラ (*M. horridula*) は自生する。いずれも剛毛におおわれる。

しかし写真のベトニキホリアは比較的毛も少なく、草姿はやさしい。また生育環境も湿潤な森林の中などを好み、生長も早い。現在鉢植えとして流通しているのも本種やこれらを交配した種類が多い。透明感のある花色は観賞植物として有望と思われるので、今後耐暑性のある品種が育成されることであろう。

ヨーロッパ産のカンプリカ (*M. cambrica*) は黄色花で八重咲も作出されている。

今回の旅行ではメコノプシス属は他に3種類ほど見ることが出来た。いずれも3200m以上の日当たりのよい礫まじりの斜面にあり、高さも50～60cmから1mを超えるものまで生えていた。



メコノプシス・ベトニキホリア